

「N市民 稲光は東京スカイツリーに兄のファルスを見た」上演④

緑下稲光は東京にやって来た。亀戸の駅で、野々宮のりりと再会し、東向島のカフェで野々宮から、劇団にかつて所属していた百竹智代が京島で陽のファンと称する男と一緒に住んでおり、死体の情報も知っていると告げる。

野々宮との会話の途中、稲光は、カフェの窓の外の公園のベンチに陽の幽霊を見る。結局その日は、百竹とファンには会えず、翌日、東京スカイツリーの真下で再度待ち合わせたのだが、そこでも稲光は頭部のみがウルトラマンになった陽の幽霊に遭遇してしまう。

つきまとう幽霊によって、稲光は、兄の東京での死を確信するのだった。ただ、その死体のみが見つからないのである。兄の死の辻褄をあわせたい一心で、稲光は死体のありかを求め、ファンと称する男に詰め寄るが、ファンは、まるでカネヅルか退屈しのぎの相手にしか稲光のことを考えていなかったのである。

夜、稲光は、京島の商店街の空き地で死体を探し続ける。だが、そこは、なんとかファンに頼んで描いてもらったデタラメな地図の場所にすぎなかった。向こうの夜空には、B級映画の未来都市のようにスカイツリーが見えた。